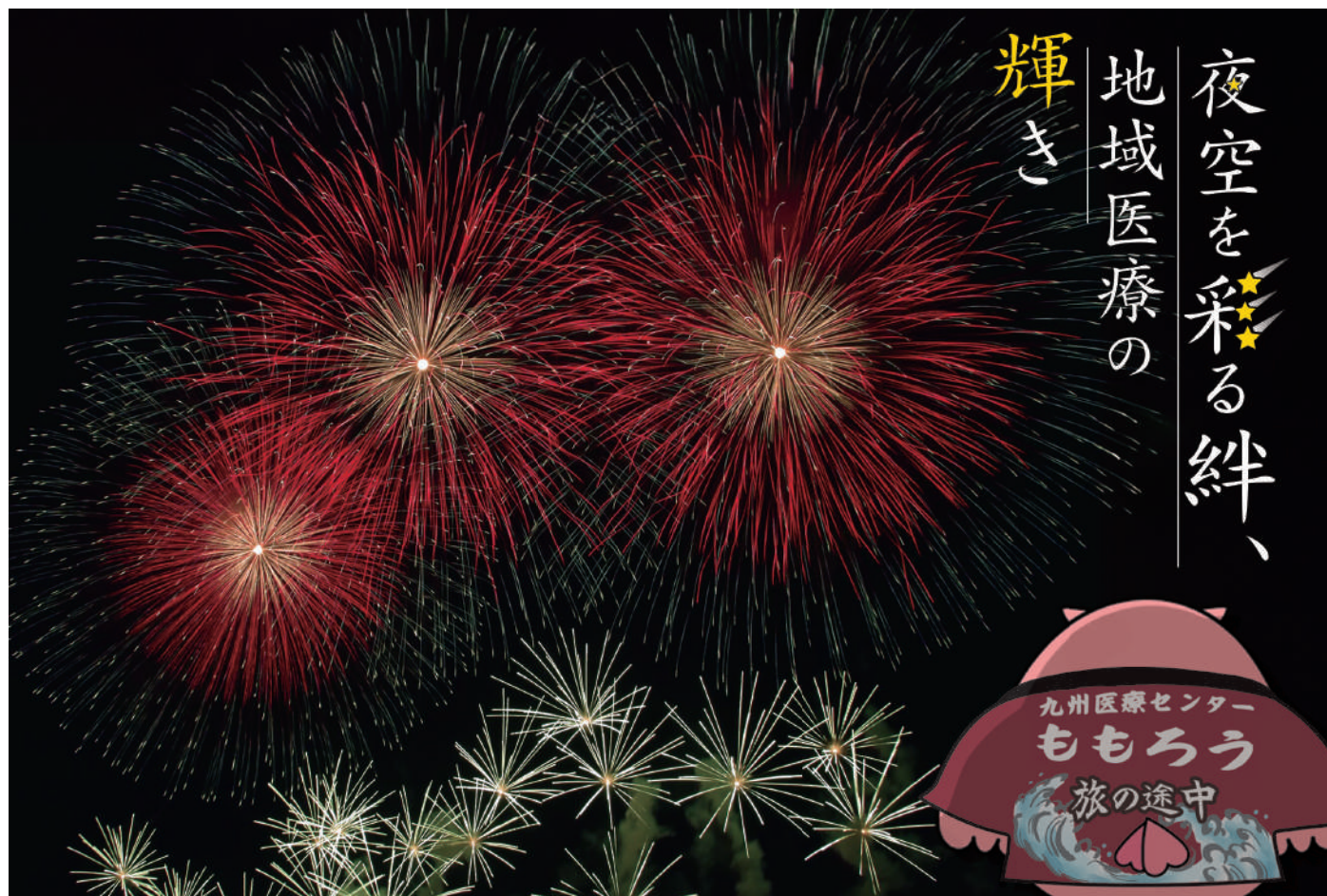




基本理念

病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療を提供します



九州医療センターの基本理念

基本理念は2018年10月に職員全員の意見を集約して決定されました。「病む人に寄り添う」とは、常に患者さんに接して苦痛や希望を知り、患者さんの権利を第一に、ご家族や重要な関係者の思いにも耳を傾けて温かい医療を実践する姿勢を表しています。「安全」な医療とは、検査および治療成績とともに当院での成績をもとに十分な説明を行い、患者さんの理解と同意を得て、可能な限り不利益を最小限化して提供する医療です。また「最適な」医療とは、病院の総合力を生かして、いくつもの選択肢の中から患者さんの自己決定権のもとで選ばれた医療を、患者さんと医療者が協議して実践する医療です。

職員は時代の変化と患者さんのニーズに柔軟に対応できるよう日々研鑽し、医療連携を推進し、病院の健全な経営にも積極的に参画し、一丸となって基本理念および運営方針を推進します。

INDEX

- ① 巻頭言 岩崎浩己
- ② 新任の挨拶 宮村、甲斐、溝口、太田、幸田、古山、石田
名本、高瀬、中西、大井、井上、西坂、今村、広瀬、宮寄
- ③ 医療最前線 瓜生英興
- ④ さわやかナースング 金子大佑
- ⑤ ヒポクラテスのカフェ / 九州ところどころ
- ⑥ 地域医療連携だより りゅう内科・外科クリニック 龍 知記
- ⑦ 脳神経外科のニューロナビゲーションシステムが新しくなりました... 雨宮健生
- ⑧ 多職種交流研修を開催しました 西本祐子





「KMCミッション2024」 ～この1年を振り返って～



病院長 岩崎 浩己

今年はあっという間に梅雨が明けて一気に夏本番ですね。仕事での熱中症対策にも万全を期していただきたいと思います。

さて、開院30周年に合わせて発出した「KMCミッション2024」ですが、この1年の歩みを私なりに振り返ってみたいと思います。みなさんも是非この機会に7つのミッションを思い起こしてみてください。生き生きと仕事ができているですか？ なにか目標を定めていますか？ 足りていないものはなんですか？ チームカンファレンスなどの機会にちょっと話をしてみてください。ポジティブな気づきが生まれて、日々の活力に繋がれることを願っています。

TrueBeam導入、手術支援ロボットda Vinci Xiの2台体制、MRIと320列CTの更新など順次進めてきました。一方、人材の確保に関しては未だ課題が残っています。とりわけ救急科専門医と麻酔科医の安定的な確保は喫緊の課題です。看護職員は充足してきましたが、他のメディカルスタッフは足りていない部門があります。病院管理者の責任で解決しなければならない問題です。

5. 優れた人材を育てる組織力の強化 達成度 ○/△

新しく組織に加わった若い人たちの夢を叶えるために、キャリアプランをしっかりとサポートする研修教育体制を充実させることが大切です。看護部を中心にオンボーディングのための取り組みも進められています。離職率が大幅に下がるという目に見えた成果が得られています。看護師特定行為研修は引き続き好評ですし、今年度から純真学園大学診療看護師（NP）コースへの協力も始めました。また、卒後臨床研修評価機構（JCEP）の受審も控えていますので、研修医教育を抜本的に見直すこととしています。研修医諸君の自律と積極性を促し、指導医も正面から向き合うための意識改革を進めています。

6. 臨床力と研究力の相乗効果でトップブランドへ 達成度 △

令和5年度のNHO臨床研究活動実績評価ポイントランキングで当院は9位（2,025.8ポイント）に低迷しました。臨床研究センターを標榜するためには2,000ポイント以上を維持する必要があります。働き方改革など研究活動に対する逆風もありますが、若い世代の奮起を期待しています。

7. 健全経営 達成度 △/×

ご承知のとおり、令和6年度収支は赤字に転じました。前年度と比べて病床利用率も医業収益もプラスになっているのですが、人件費、委託費、診療材料費、医薬品費など費用の増加が収益の伸びを上回っているというのが現状です。「病院建て替えを実現するための病院経営改善プロジェクト」を全職員参加型で立ち上げました。1領域：病床利用率の向上、2領域：手術件数の増加、3領域：救急医療の充実、4領域：診療・業務の効率化推進、5領域：査定率の低下、6領域：材料費等の費用削減、7領域：ブランド力の向上、全7領域を定めて具体的な取り組みを進めます。昨年7月に受審した病院機能評価のときの一体感を持って臨めば大きな成果が得られると確信しています。

以上、「KMCミッション2024」の7つのミッションを振り返ってみました。職員一人ひとりの意識の持ちようは間違いなく高くなっていますので、安心して仕事ができる職場環境の維持、臨床研究活動実績の向上、そして健全経営へと繋げていくことは難しくないと思っております。暑い夏、ポジティブマインドで走り抜けましょう！

1. 一人ひとりがKMC ～患者さんに選ばれる病院であるために～ 達成度 ◎

このフレーズ自体はかなり浸透してきたのではないかと感じています。一人ひとりが病院を代表しているという自覚と誇りを持って「善き行い」を積み重ねていくこと。病院のブランド力はこれにつぎと考えています。令和6年度のインシデントレポートが6,000件を超えました。病床数×5件というのが標準的な目標ですのでこれは凄いことです。さらに嬉しいことにファインプレー報告が4分の1を占めています。「気づき合い、学び合う、ありがとうの連鎖」が確実に進んでいます。

2. 基本理念を大切にしたい温かみあるホスピタリティ・コミュニケーション 達成度 ◎

コミュニケーションの入口は挨拶ですね。病院内を歩いていると、気持ちよく挨拶していただく機会が増えたと感じています。外来で行き先を探しておられる患者さんに自分からお声がけするスタッフの姿もよく見かけます。当たり前のことが自然とできていることに安心感があります。外来ATM前の一等地にあった臨床試験支援センターを移動させ、新たに相談支援コーナーを設けました。多職種が関わる相談支援体制を充実させています。患者さんの不安や苦痛にしっかりと寄り添い支えるという私たちの基本理念をどんどん行動に移して行きましょう。

3. 誇りと喜びを感じながら安心して仕事ができる職場環境の維持 達成度 △

今年の診療科／部門ヒアリングシートに「職場環境維持のための取り組み」の項目を追加しました。いくつかの部署でハラスメント事案が発生したからです。病院管理者として恥ずかしい思いです責任を感じています。ハラスメントを生む風土をなんとかして根絶しなければなりません。診療科長、職場長のみなさんが果たす役割はもちろん重要です。部下一人ひとりに丁寧な思いを届ける取り組みをお願いします。

4. 地域の人びとの命を守る高度急性期・救急医療の充実 達成度 ○/△

当院は高度急性期医療と3次救急医療を担う急性期拠点病院です。地域の中で役割を果たしていくためには最新医療機器の整備と人材の確保を計画的に行う必要があります。ハイブリッド手術室の整備、放射線治療センター開設と最新のリニアック装置



就任のご挨拶



副院長 宮村 知也



このたび本年4月より副院長を拝命いたしました宮村と申します。専門はリウマチ膠原病内科で、医療安全、労務管理、研修医教育など、病院運営に関わる院内総務を担当いたします。

当院は、福岡・糸島医療圏の中核を担う急性期医療機関として、救命救急をはじめとする高度で専門的な医療を提供しており、国立病院機構140病院の中でも有数の診療実績と患者数を誇ります。また、毎年

多数の研修医、看護師をはじめとした多くの新人職員を迎え、診療のみならず教育の面においても重要な役割を果たしております。一方で、医師の働き方改革や経営環境の変化など、医療現場は大きな転換期を迎えています。このような中でも、私たちは「患者さんに最善の医療を、職員にとって最良の職場を」提供できる病院であり続けることを目指しています。

これからも地域の皆さまから信頼され、選ばれる病院であるよう、全力で取り組んでまいりますので、ご支援のほどをお願いいたします。



臨床研究センター長 甲斐 哲也

就任のご挨拶



令和7年3月1日に臨床研究センター長に就任致しました。前任の高見裕子先生が令和6年12月末をもって退職された後、2ヵ月間の空席を副院長の岡田靖先生が代行された後に私が就任する形となりました。麻酔科医として、これまで麻酔診療と手術室の管理運営という臨床業務を主体に仕事をしてきて、直近の令和5年度からは統括診療部長として病院全体の診療業務の改善に取り組んでいるところだった

め、大きな業務変更戸惑っているところです。しかしこれを機に、これまで先送りしてきた自分の臨床研究に再び手を付けるとともに、選任頂いた病院長の期待に応えられるよう、臨床研究に関わる法令や制度を学び直し、当院の職員みんなが研究を進めやすい環境を整えて、当院の臨床研究と治験等の臨床試験の実績をさらに向上できるように努めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



統括診療部長 溝口 昌弘

就任のご挨拶



3月1日付で統括診療部長を拝命しました溝口昌弘です。令和4年度より脳神経外科科長として赴任し、令和5年度よりゲノム診療部長を兼任しております。脳神経外科は脳血管センターの外科部門として発展してきましたが赴任後は脳卒中領域のさらなる発展とともに専門である脳腫瘍領域をもう一つの柱として拡充してきました。また、ゲノム診療部長として診療科の枠を超えてゲノム医療に対する取り組みを推進

しております。九州医療センターでは、いずれの診療科も熱意と使命感を持って高難度、最先端の医療に取り組んでおります。様々な課題はございますが、更なる団結のもと一人ひとりが理想とする医療の実現に向け日々診療に取り組むことができる環境を整え、九州医療センターの更なる発展に尽力してまいります。地域医療連携の一層の強化を図り、皆様に信頼される病院となるべく邁進していく所存です。今後とも、ご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



看護部長 太田 恵子

就任のご挨拶



令和7年4月1日付で長崎医療センターから異動して参りました看護部長の太田恵子と申します。九州医療センターという国立病院機構の中のリーディング病院である大きな施設で、看護部長を拝命することかなりの重責を感じて赴任しました。緊張の中にも比較的心穏やかに新任地でのスタートを切れたのは、職員が「人に寄り添う」という病院理念のkeywordを大切に、とても暖かく迎えてくれたからだと思感し感謝しています。

座右の銘とまではいきませんが、看護部長として意識し、大事にしている「わちゆうきょうどう和衷協同」という言葉があります。心をついて、協力し合い、物事を成し遂げるという意味の四字熟語です。大所帯の看護部だからこそ、心をついてすることができれば大きな成果を生むことができると考えます。施設の成長・地域にとってかけがえのない病院としてあり続けるためにも、看護管理者として個々の職員に関心を寄せ、対話を以て理解と協力を得ることができるよう精進いたしますので関係各所の皆様方にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



皮膚科・アレルギー科科長を拝命のご挨拶

皮膚科・アレルギー科科长 幸田 太



2025年4月より九州医療センターの皮膚科・アレルギー科科長を拝命いたしました。私が生まれたのは九州医療センターの前身、国立福岡中央病院で、私の父も国立中央病院に皮膚科医として勤務していたということもあり、「縁」というものを感じております。私は平成8年に九州大学皮膚科に入局し、九州大学病院はじめ浜の町病院や飯塚病院など福岡県内の基幹病院、中核病院で多くの先生方にご指導を頂き

ながら研鑽を積ませていただきました。その後、一旦大学医局を離れクリニック院長として働いていましたが、この度縁ありまして伝統ある九州医療センターで診療する機会を与えていただきました。これまでの貴重な経験をいかし、先輩方の築かれてきた皮膚科の評判を汚すことなく、地域の皆様の皮膚の健康のお役にたてる診療科になりたいと考えております。まだまだ若輩者ではありますが、各医療機関の先生方にはご指導のほどよろしくお願いいたします。



血管外科科長 古山 正

血管外科科長就任のご挨拶



2025年4月より血管外科科長を拝命致しました古山 正です。前任の小野原俊博医師より引き継ぎました。九州医療センターでの勤務は計8年目になります。血管外科の対象疾患は外傷と老化です。外傷としては諸疾患におけるカテーテル治療の普及とともに医原性の血管損傷が増加しています。老化は動脈においては動脈硬化、静脈においては静脈灌流障害という形で現れます。動脈硬化は全身病ですので、心脳血管合併症のみならず、高血圧、糖尿病、慢性腎臓病など

の管理も重要です。

諸疾患同様に血管外科領域においてもカテーテル治療の発達はめざましいものがあります。腹部大動脈瘤の開腹手術はステントグラフト内挿術に、下肢末梢動脈疾患のバイパス術はステント留置術やバルーン拡張術に、下肢静脈瘤のストリッピングはグルー血管内塞栓術へと多くの症例がシフトしています。我々は外科手術とカテーテル治療の両術式を用いて、患者さんそれぞれに応じた治療を提供できるように日々精進しています。



膠原病内科科長 石田 素子

膠原病内科科長就任のご挨拶



このたび、膠原病内科の科長を拝命致しました石田素子と申します。初期研修修了後、総合内科にて診療経験を積み、前任の末松栄一先生、宮村知也先生のご指導のもと、2010年より当科において膠原病診療に従事して参りました。今回の就任は、私にとって身に余る大役であり、責任の重さに身の引き締まる思いとともに、不安を感じているのも正直なところですが、これまで支えてくださった諸先輩方、同僚、地域の先生方への感謝を胸に、一つひとつ誠実に取り組んでまいります。

所存です。当科では、多岐にわたる自己免疫疾患を対象に診療を行っております。これらは臓器横断的かつ多様な病態を有するため、診断から治療、全身管理に至るまで高度な専門性と、多職種・多診療科との緊密な連携が不可欠です。今後も関連各科のご協力のもと、専門施設としての責任を持ちながら、質高く、患者さんに安心して頂ける医療の提供に努めてまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



超音波・生理検査センター長を拝命しまして

超音波・生理検査センター長 名本 路花



このたび、超音波・生理検査センター長を拝命しました名本路花と申します。

当センターは2014年度に多職種が関わる全く新しい組織形態として発足した中央診療部門です。多様なスタッフが協力し、当院の特長である「チーム医療」を実践してまいりました。

センター発足以来、超音波機器の把握・計画的更新や修理対応・機器の使用説明会・検査枠新設や整理・臨床研修医のエ

コー研修等を開始・継続しております。新型コロナ流行時もち早く独自の感染対策を行い、検査を途切れなく提供できるよう努めました。直近では、当センターで提案した抗菌作用のあるエコーゼリーを当院全体に導入しました。また、患者さんになるべくお待たせすることのないよう、待ち時間調査等を含めて臨機応変な対応を心掛けております。

これからも、適切な診療・環境を提供できるようスタッフ一同とともに努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

循環器内科医長 高瀬 進



本年4月より九州大学病院 循環器内科から赴任して参りました高瀬進と申します。心臓疾患の中でも不整脈を専門としており、様々な不整脈の診断・治療を担って参りました。不整脈は、症状が発作的であったり病気自体が分かりづらいことから、地域の中で漠然とお困りであったりご不安を持たれている方々も多いのではと思います。そのような

中、一人ひとりの患者の皆様へ寄り添いながら、九州医療センターで検査・治療して良かったと心から思ってもらえるよう、最善の医療を提供すべく不整脈チームで力を合わせて尽力して参ります。お困りの方がおられましたら、お気軽にお声がけ頂ければと存じます。また、院内外の先生方、スタッフの皆様と連携して全身・全人的な医療を提供できればと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

よろしくお願ひします

消化管外科医長 中西 良太



消化管外科の中西良太と申します。これまで松山赤十字病院、九州大学病院、癌研有明病院を経て、昨年度は飯塚病院に勤務しておりました。主に大腸癌の診療に携わり、手術と化学療法に力を入れております。手術では、腹腔鏡、ロボット手術を専門としております。癌の手術においては再発を

療法、手術、放射線治療、重粒子線治療などを組み合わせることで、根治が望めたり、予後が延長することが多いです。引き続き安全で最適な治療を提供できるよう努めてまいります。地域の先生方との連携の強化、将来の消化器病診療を支える後進の育成にも注力していきます。皆様と協力して、楽しく明るい職場環境を作っていきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いします。

就任のご挨拶

放射線部 診療放射線技師長 大井 邦治



まず放射線部としては、「すべての診療放射線技師が輝き、一人ひとりがやりがいを実感できる、信頼と成長が両立する、

安心して働きがいのある職場」をビジョンに掲げています。知識・技術の向上、医療安全への配慮、チーム医療への貢献を意識し、放射線部全体の底上げができればと考えています。

さて、鼻息荒いことはさておき、私事ですが、普段は医療機器や携帯、メールの対応などに囲まれた「デジタルまみれ」の毎日を過ごしているため、週末は登山をしてリフレッシュしています。いわゆる「デジタルデトックス」です。ご興味のある方は、ぜひ一緒に登りに行きましょう。気軽にお声かけいただけたら嬉しいです。

新任の挨拶

企画課長 井上 博之



頂いております。

さて、昨今の医療経営においては、多くの病院において、収益は増加しているものの物価や委託費を含む人件費に代表され

る事業費用がそれを上回る状況が続いていることはみなさまご承知のことと存じます。当院も例外ではなく、財務状況は非常に厳しく予算を許さないところまできております。

このような時だからこそ、当院で勤務させていただけることに感謝し、当院のミッションを果たすべく経営面からの貢献を第一に、端から微力ではありますが日々考えながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



新任の挨拶

経営企画室長 西坂 賢一



令和7年4月1日付で熊本医療センターより異動して参りました経営企画室長の西坂と申します。

私の部署は、経営企画室と企画課（医事部門）の職員で構成されており、事務部門の中でも少人数の組織ですが、病院経営に直接的に関係する非常に重要なポジションと考えております。

事務職員であるため、直接的に収入を増やすことは難しいですが、診療報酬の請求で、本来請求ができるもので請求が漏れ

ているものはないか、また、査定要因や傾向を踏まえ、査定を減らすことができないかなど、事務の視点からできることを発信し、病院の収支改善に貢献したいと考えております。

また、医療DXの推進により、病院の環境が大きく変わってきている中、私自身が得意な分野ではないこともあり、多少の戸惑いもありますが、関係部署の皆さまにもご相談をさせていただきながら、患者さんの利便性向上や職員の皆さまの業務軽減に繋がるよう取り組ませていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



副看護部長 今村 繭子

着任のご挨拶



この度、別府医療センターより異動してまいりました今村繭子と申します。九州医療センターには開院時から18年間お世話になりました。今回14年ぶりの勤務になります。

九州医療センターへの内示を受けた時には、病院の規模や課せられた役割の大きさが想像できるだけに、自分に務まるのかと不安になりました。しかし、当時一緒に勤務していた方々や、職員の皆様に温かく

迎えていただき、緊張しながらも安心して勤務をスタートすることが出来ました。

基本理念である、「病む人に寄り添う」ことを常に心にとめ、患者さんにご家族に寄り添った看護ができるよう、スタッフと共に考え尽力してまいります。また、職員の方々との関りを大切にしながら、自分に出来る事を真摯に取り組んでいく所存です。ご指導の程、どうぞよろしくお願いいたします。



副臨床検査技師長 広瀬 亮介

新任のご挨拶



4月1日付けで熊本医療センターより配置換えとなり九州医療センターに赴任いたしました広瀬と申します。九州医療センターで勤務するのは14年ぶり2度目となります。かつてお世話になった病院に立場を変えて戻ってまいりましたことにご縁を感じております。赴任当初は大きな緊張感を

抱えておりましたが当時と変わらない病院の佇まいに温かく迎えられ少しホッとしつつも気を引きしめているところです。

現在臨床検査部ではISO15189を取得しより高い水準での管理業務を行っており、その一端を担うことに身の引き締まる思いです。まだまだ学ぶことも多く日々奮闘しておりますが、検査部に対してご要望などございましたらどうぞお気軽にお声かけいただければ幸いです。臨床検査部門の業務が円滑に進むよう環境を整えるとともに病院全体の経営にも貢献できるよう微力ながら尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



副診療放射線技師長 宮寄 義章

着任のご挨拶



この度、4月1日付けで副診療放射線技師長を拝命し、長崎医療センターより着任いたしました宮寄義章と申します。九州医療センターで勤務するのは6年ぶり2回目となり、前は照射主任として勤務していました。その後も、臨床研究（発表/論文）や人材育成に注力するとともに、診療情報

管理士を取得し病院経営に努める経験を積むことが出来ました。今回再び勤務できることで、当時お世話になった方々から

お声がけを頂き、感謝の思いと共に大変身の引き締まる思いです。微力ではございますが、全力で尽力いたします。特に心理的安全性に配慮した職場環境を担保し、スタッフ一丸となって職務に向き合えるように覚悟を持って努める所存であります。また、日進月歩の勢いで進化する医療技術を安全に運用できるよう多職種とも連携し、さらに医療へ貢献していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻を受け賜りますよう心からお願い申し上げます。

頭頸部癌治療におけるアルミノックス治療（光免疫療法）の概要

耳鼻咽喉科頭頸部外科 科長 瓜生 英興

頭頸部癌とは

頭頸部癌は、脳・眼球を除く顔面および頸部に発生するがんの総称で、具体的には口腔癌（舌癌、口腔底癌、歯肉癌、頬粘膜癌など）、咽頭癌（上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌）、喉頭癌、鼻副鼻腔癌、唾液腺癌などが含まれます。

がん全体の発症率では約5～6%と少数派ですが、嚥下、発声、呼吸、表情、味覚など生活の質（QOL）に直結する重要な機能が集中している部位で発生するため、治療戦略は単なる腫瘍制御にとどまらず、機能温存や整容性の確保、患者の社会生活への復帰までを視野に入れる必要があります。

頭頸部癌の主な原因と特性

頭頸部癌の主な危険因子は、長年にわたる大量飲酒と喫煙です。特に下咽頭癌や喉頭癌、中咽頭癌はこの傾向が顕著です。一方で近年、中咽頭癌の約70%はヒトパピローマウイルス（HPV）感染が関与していることが明らかになっており、若年層にも増加傾向にあります。

特徴的なのは頸部リンパ節転移の頻度の高さと、無痛性の頸部腫瘍として見つかることも多く、脂肪腫や粉瘤と誤認される場合もあります。

標準治療と課題

頭頸部癌の標準治療は、手術、放射線治療、化学療法です。初期の切除可能症例では手術が基本ですが、頭頸部は解剖学的に複雑で、発声・嚥下機能の温存が重視されるため、単独治療では限界があり、複数の治療法を組み合わせる「集学的治療」が求められます。

さらに局所進行例や再発例、切除不能例では、従来の治療選択肢は限られ、症例によっては根治を目指せないケースも少なくありません。この課題に対し、全く新しい作用機序を持つ治療法として登場したのがアルミノックス治療（光免疫療法）です。

アルミノックス治療の仕組み

アルミノックス治療は、米国国立がん研究所（NCI）の小林久隆博士らが開発した技術を基に、日本で世界に先駆けて2020年代初頭に承認され、2022年度から保険適応となりました。

使用する薬剤「アキシャルックス」は、上皮成長因子受容体（EGFR）に結合する抗体薬セツキシマブと、光感受性物質IR700を結合させた抗体薬物複合体です。

①薬剤投与

患者にアキシャルックスを点滴静注し、EGFRを高発現するがん細胞表面に選択的に結合させます。

②光照射

専用のレーザー装置で患部に特定波長（690 nm）の光を照射すると、光感受性物質が励起され、細胞膜を瞬時に破壊し、がん細胞のみを選択的に死滅させます。

この治療は抗体医薬、光線力学療法、免疫療法の要素を組み合わせたハイブリッド治療と位置づけられ、これまでの治療法とは全く異なる作用機序を持つ点が特徴です。

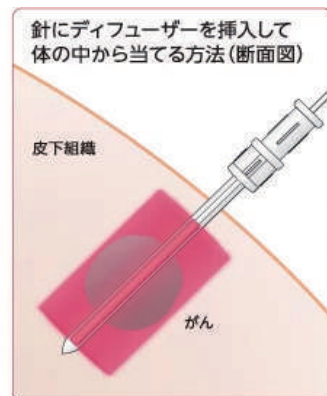
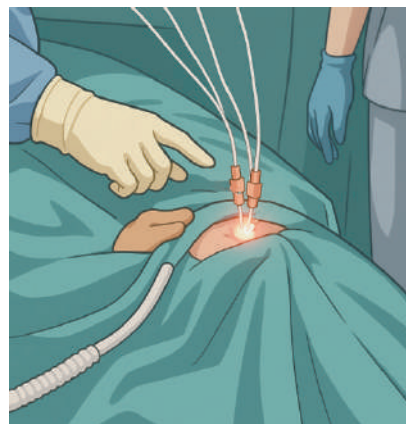
適応と実績

現在、日本で保険適応が認められているのは「切除不能局所進行または局所再発頭頸部癌」に限られています。手術不能例、根治術後の局所再発例、既存治療では制御困難な症例が対象です。治療対象は全国的にもまだ限られており、施行は日本頭頸部外科学会の登録制度下、専門施設・専門医による慎重な症例選択が求められます。

九州においては、当院・九州医療センターが最多の症例数を誇り、全国でも有数の実績を積み上げています。九州山口から患者紹介を受け、アルミノックス治療の適応評価、施行、経過観察を行い、その治療成績・安全性データを蓄積しています。

まとめ

アルミノックス治療（光免疫療法）は、従来の治療では根治困難だった患者に対し、新たな治療の道を開く画期的な技術です。私たち九州医療センターは、九州随一の実績を背景に、患者一人ひとりに最適な治療を届けるべく、日々取り組んでいます。今後も多くの患者に貢献できるよう、さらなるエビデンスの蓄積、治療適応の拡大、治療成績の向上を目指していきます。



看護部では令和7年4月に94名の新人看護職員を迎えました

社会人そして看護師・助産師として歩み始める場として九州医療センターを選んでくれた大切な仲間です。入職後2週間の初期研修では、新人看護師同士の学びの共有や仲間づくりを行い、所属する病棟への職場適応を促すことができるように日々Off-JTとOJTを組み合わせて実施しました。初期研修を終えて、「先輩が一つ一つ根拠を含めて指導してくださり、わからないこともわかるようになる過程がとても楽しく看護師としてこれから頑張っていきたいと思えた。」と、それぞれの新人看護師が看護に対する気付きを得て、看護職として働くことの期待を感じていました。当院では、互いに自律的でフラットな関係の中で成り立つ“お互いに学びあい、教え合い、共に育つ”「共育」を実践しております。職場が心地よい居場所となり、新人・先輩関係なくお互いが個々を尊重した「共育」を実践できるような支援を行いながら、成長を見守っていききたいと考えています。



研修風景



初期研修開始



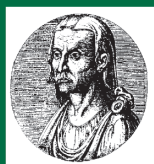
シャドーイング



おむつ交換研修



BLS研修



ヒポクラテスのカフェ

“アボカドの話”

NHO 都城医療センター 吉住 秀之

ひゅっと空を切って、私の足下に、何か黒いものがぽとりと落ちてきた。あっ、と私は思わず声を上げた。

つやつやと輝く木の実。アボカドだった。

(原田マハ『月夜のアボカド A Gift from Ester's Kitchen』)

冒頭の小説では、主人公がロサンゼルスに住むメキシコ人の移民の友人を訪ねて、そこでメキシコ料理を振る舞われ、とりわけワカモーレ（アボカドのペースト）に感動するくだりがあります。そのアボカドは自宅の庭に生えている実を収穫したものでした。



現在アメリカで消費されるアボカドの約8割はメキシコ産ですが、1914年から1997年まではアボカドに付着する害虫が柑橘類に及ぼすリスクを避けるため、カリフォルニア州が強固に反対したため輸入が禁止されていました。しかしメキシコ移民がワカモーレをアメリカに広め、トルティーヤになくてはならない食材となったため、2005年から禁輸が解け、2007年に全面解禁されて以降メキシコからアメリカへの輸入量はうなぎ登りに増え、アメリカ人一人で年3kgを消費するまでになっています。特にスーパーボールは、トルティーヤチップスとワ

カモーレを食べながら観戦するというスタイルが一般化しており、開催時期である2月の前には需要が急上昇するそうです。日本もアメリカ、カナダに次いで第三位のメキシコ産アボカドの輸入国です。今ではふつうにスーパーに並ぶ食材となっており、温暖な気候である四国の松山などを中心に国産化が進められています。流通しているアボカドのほとんどは、熟すと黒くなるハス種という品種ですが、アメリカでもこの品種が一般的で、冒頭の小説では「黒い」実であることからハス種であろうと思われます。黒くなると熟れ頃なのですが、「世界でいちばんむずかしいのは、アボカドの熟れ頃を言い当てること」（村上春樹『おおきなかぶ、むずかしいアボカド』）という言葉もあるように、料理する度に熟れ方がまちまちで、「完璧な料理などといったものは存在しない、完璧なアボカドが存在しないようにね」と呟いている人がいるかもしれません。

アボカド *Persea americana* は新生代に進化の頂点を極めた植物で、その種は今以上に大きく、もっぱら大型動物（マンモスやメガテリウム）によって食べられることで、種を散布する戦略で繁栄していました（動物被食散布といえます）。ところが1万3千年前にこれらの大型動物が絶滅してしまいます。それでもアボカドの種は大きいままでした。進化の袋小路にはまってしまったアボカドを救ったのは、それを栽培し果肉を厚く、種を小さくした人類でした。日本で目にする品種は限られていますが、世界には1000品種以上あるといわれ、西インド諸島や南アフリカ、スペインなどで様々な品種が育てられています。アボカドには、乳牛などに乳腺炎を起こしたり、鳥類に心筋壊死を起こしたりするペルシン persin という毒素があるのですが、人間には無害であったことも幸いました。人類と出会わなければ、アボカドは熟れた果実をさみしくぽとりと落とすだけで繁殖は望めなかったことでしょう。



九州とところどころ

シーサイドももち

—いつもの日常に、ちょっとした非日常を—



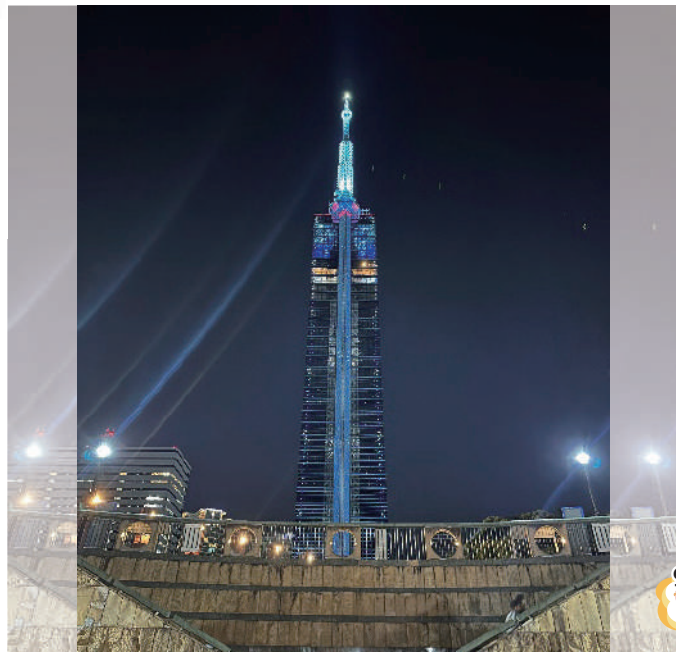
福岡市の西新・百道エリアに広がるシーサイドももちは、美しい海岸線と都市景観が共存する、福岡を代表するウォーターフロントスポットです。博多湾に面した開放的な空間には、心地よい潮風とともに、日常を忘れさせてくれる景色が広がります。また、整備された遊歩道や芝生広場もあり、散歩や軽い運動にもぴったりです。

砂浜からすぐの場所にある海辺のテラスでは、潮騒をBGMに新鮮なシーフードや地元の食材を活かした料理を楽しむことができます。昼は明るい日差しのもとでリゾート気分を、夜はライトアップされた海辺とともに、ロマンチックな雰囲気が楽しめます。カジュアルなカフェから本格的なイタリアンや

フレンチまで、シーンに合わせて選べるのも魅力です。また、レストランからは福岡タワーやマリゾンなどが望め、「食」と「景観」が融合した贅沢な時間を過ごすことができます。

九州医療センターからのアクセスは良好で、徒歩でも気軽に訪れることができる距離です。都会の真ん中にありながら、まるで別世界のような開放感をぜひ一度体感してみてください。

ペンネーム：トラベリスト



地域医療 連 携 だより

地域に愛される クリニックを目指して

〒810-0074
福岡県福岡市中央区大手門3丁目3-24 小金丸ビル2F
りゅう内科・外科クリニック
院長 龍 知記

りゅう内科・外科クリニック院長の龍 知記と申します。2025年3月に中央区大手門に開院しました。地下鉄大濠公園駅から徒歩3分、西鉄バス荒戸一丁目/大手門三丁目のバス停から徒歩3分の簗子公民館の前に位置します。昭和通りから1本北側に入った路地になりますが、連日行列ができています。有名なうどん屋さん「志成」さんが入っているビルの2階と言えば分かって頂ける方も多いかと思いますが、

昨年未まで九州医療センターで長い間勤務させていただき、たくさんの九州医療センターの皆様には大変お世話になりました。このKMC NEWSに退任の挨拶を書かせていただいたのがついこないだのように思いますが、改めてこの場をお借りしてこれまでお世話になった九州医療センターの皆様方に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

さて、当クリニックは開業して3か月あまりが経過しました。開業した大手門・荒戸・港地区は福岡市の中でも生産年齢人口（15歳以上65歳未満）

の割合が高い地域であり、比較的若い方の受診も多いですが、地域の診療所として幅広い年齢の方々に受診していただいています。診療理念である「地域に寄り添い、健やかな毎日をより多くの人々へ」の実現を目指し、内科・外科を問わずに何でも気軽に相談ができる「地域のかかりつけ医」として、地域に貢献できるよう努めていきたいと考えています。そして、これまで九州医療センターで学んできた専門性を活かして、肝臓、胆のう、膵臓の病気を持つ患者さん、特に近年増加傾向にある生活習慣病を背景とした肝機能障害、脂肪肝の患者さんの早期発見、早期治療に力を入れたいと考えています。

クリニックの診療理念に掲げた「地域に寄り添い、」は九州医療センターの基本理念「病む人に寄り添い、」から拝借させていただきました。これまで九州医療センターで育てていただいた恩を地域に還元できるよう、学ぶ心、感謝の気持ちを忘れずに、地域に愛されるクリニックを目指して頑張っていきたいと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。



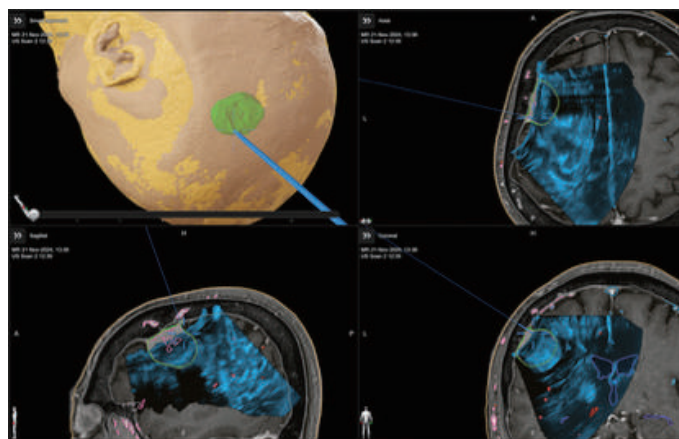
脳神経外科の

ニューロナビゲーションシステム が新しくなりました!!

九州医療センター脳神経外科では、脳腫瘍手術の安全性と有効性を高めるため、最新のニューロナビゲーションシステムを導入しR7.3より稼働を開始しました。このシステムは、術前の患者様の画像データを基に、手術中に病変の位置を

脳神経外科 雨宮 健生

リアルタイムで確認・補正することが可能です。手術用顕微鏡や術中エコーとリンクすることにより、手術の精度がさらに向上し、患者様により安全で効果的な治療を提供できるようになりました。



今後も最新の医療機器を活用し、患者様の健康と安全を最優先に考えた治療を行ってまいります。

人事の動き

令和7年4月2日～令和7年7月1日



医療職（一）

就任	肝胆膵外科医師 橋本 和晃	退任	肝胆膵外科医師 山本 玄
-----------	---------------	-----------	--------------



多職種交流研修を開催しました

元気本舗（福利厚生委員会）

R6.11.29（金）、5年ぶりの多職種交流研修「一人ひとりがKMC」を開催することができました！職種や年代、性別を越えた50名の有志が集まり、お互い「初めまして」からのスタートです。まずはグループワークでペイシェントジャーニーマップを作成（*）。それぞれが患者自身になりきり、「当院を初めて受診→接点をもった人、モノ→経験したこと→その時の感情」をマッピングし、患者も職員もハッピーになるにはどうしたらよいのか？を考え、具体案を発表してもらいました。夢のような発想から、直ぐに実行できそうな秘策まで、多職種ならではの多くの興味深いアイディアが誕生しました。わずかな時間でしたが、初めましての人と同じテーブルを囲み、飲んで食べて、笑いあった時間は、間違いなく明日からのパフォーマンスにプラスに働くでしょうし、「一人ひとりがKMC」の未来を考える貴重な時間となったと思います。

九州医療センターが、地域、患者さん、職員にもっともっと愛されるよう、これからも様々な催しを企画して参ります。

（*）「患者になったつもり」でジャーニーマップを作り上げることで、患者が体験する感情、思考、行動、および意見を理解でき、患者中心のよりよい医療の推進に繋がります。

元気本舗 西本祐子



編集後記

表紙は、日本三大花火大会の一つに数えられる「長岡まつり大花火大会」（新潟県）の光景です。毎年8月2日・3日に開催され、その壮大さで多くの人々を魅了しています。福岡でも多彩な花火大会が催されますが、この夏は「花火旅行」と称して、各地の花火を巡る旅を計画してみるのもよいのではないのでしょうか（2013年8月撮影）。

年々夏の暑さは厳しさを増しており、室内においても熱中症のリスクが高まっています。室温をこまめに確認し、日差しを遮る工夫や冷房の適切な利用など、どうぞ万全の熱中症対策をお願いいたします。

副編集委員長 田中 裕記

例年より3週間も早い梅雨明けに続き、6月下旬からは厳しい猛暑が続いています。地球温暖化の影響が叫ばれて久しいですが、今年はその現実を一層肌で感じる夏となりそうです。

本号では、新たに就任された病院幹部・職員の皆さまのご挨拶を掲載しています。それぞれの抱負や意気込みから、新体制への期待が感じられます。また、4月には看護部に94名の新人看護職員が加わりました。これから一人ひとりが成長していく過程を、職員の皆さまに温かく見守っていただければ幸いです。

編集委員長 中島 寅彦

トビウオになれた！

トビウオは唯一（跳ねるではなく）飛べる魚です
最長記録45秒



医事統計 患者数・診療点数の推移

■令和7年度は、月平均入院患者数625人と、病床利用率90%達成が目標です。(令和7年5月現在の暫定値)

外来新患者数は、令和7年5月までの実績で3,868名と前年同月までと比べ259名の減となっています。1日平均外来患者数は、5月までの実績で875.0名と前年同月までの実績(877.1名)と比較して2.1名の減となっております。

1日平均入院患者数は令和7年5月までの実績で580.8名と前年同月までの実績(580.3名)と比較して0.5名の増となっております。新入院患者数は5月までの実績で前年同月までと比較すると37名の減となっております。平均在院日数につきましては、昨年度と同様に11.6日となっております。

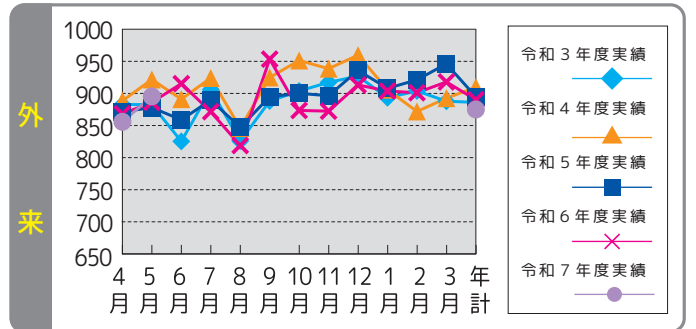
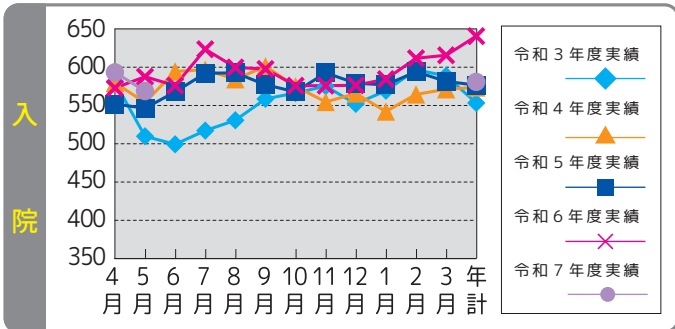
入院1人1日当たり診療点数は、令和7年5月までの実績で9,023.1点と昨年の実績と比較すると483点の増となっております。外来1人1日当たり診療点数については、令和7年5月までの実績で3,443.5点と前年同月までの実績と比較して128点の増となっております。

1日平均
入院患者数
(在院)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和3年度実績	580.4	509.8	499.3	517.2	530.7	558.6	566.3	575.2	552.1	569.3	596.6	588.7	553.3
令和4年度実績	579.6	554.0	594.5	596.7	584.3	601.1	575.0	554.6	565.7	542.1	564.5	571.2	573.6
令和5年度実績	551.9	546.4	567.8	592.1	592.6	577.1	567.8	592.6	579.1	576.9	594.1	581.4	576.6
令和6年度実績	572.8	587.6	576.0	623.5	599.7	597.7	575.8	575.9	576.4	584.4	611.7	615.6	640.6
令和7年度実績	593.3	568.8											580.8

1日平均
外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和3年度実績	882.7	882.6	825.3	906.0	825.7	888.1	903.8	917.2	927.0	893.2	903.9	887.8	886.1
令和4年度実績	888.5	921.7	891.1	924.0	846.1	924.9	951.3	938.6	959.6	905.8	871.9	892.6	909.7
令和5年度実績	871.4	877.9	858.9	889.6	847.2	894.8	900.1	896.4	935.9	907.9	921.2	946.0	894.8
令和6年度実績	868.2	886.1	915.2	871.6	818.9	953.4	873.5	872.4	913.2	903.7	901.1	917.9	890.1
令和7年度実績	855.8	895.3											875.0

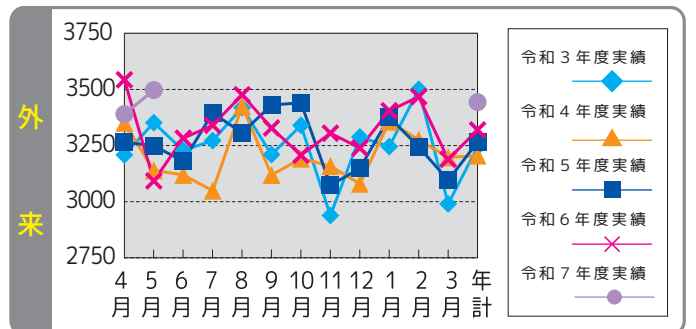
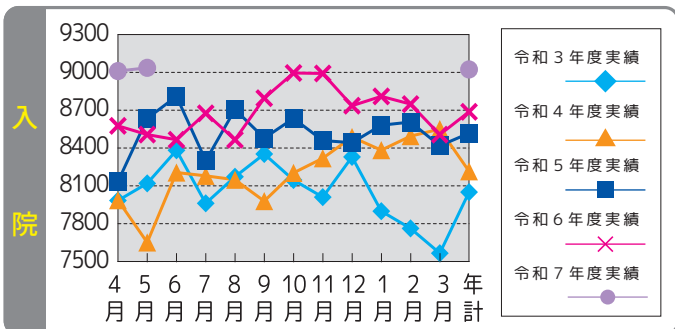


入院
1人1日当り
診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和3年度実績	7,983.7	8,119.7	8,381.9	7,961.4	8,172.2	8,352.7	8,146.2	8,010.4	8,329.4	7,899.1	7,762.5	7,565.7	8,050.3
令和4年度実績	7,986.1	7,650.9	8,205.6	8,179.4	8,148.4	7,979.0	8,202.6	8,318.7	8,486.7	8,383.0	8,494.2	8,550.1	8,215.4
令和5年度実績	8,134.0	8,634.1	8,810.2	8,299.8	8,705.5	8,478.6	8,634.9	8,459.3	8,442.2	8,580.9	8,605.9	8,418.0	8,517.2
令和6年度実績	8,575.7	8,506.4	8,465.6	8,675.5	8,466.0	8,795.2	8,995.0	8,991.3	8,735.6	8,809.5	8,748.4	8,505.9	8,687.1
令和7年度実績	9,010.2	9,036.2											9,023.1

外来
1人1日当り
診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和3年度実績	3,208.4	3,351.9	3,227.9	3,272.2	3,418.7	3,209.9	3,340.1	2,938.5	3,288.3	3,245.5	3,500.6	2,990.2	3,243.9
令和4年度実績	3,351.1	3,139.6	3,119.2	3,049.0	3,425.7	3,118.9	3,191.8	3,158.9	3,079.7	3,356.1	3,275.7	3,197.4	3,205.3
令和5年度実績	3,265.5	3,249.2	3,180.3	3,395.3	3,306.4	3,430.7	3,440.4	3,073.4	3,148.1	3,376.5	3,244.6	3,095.5	3,266.1
令和6年度実績	3,543.0	3,092.6	3,282.8	3,340.4	3,476.2	3,328.4	3,207.1	3,305.2	3,239.4	3,404.8	3,467.6	3,188.6	3,319.6
令和7年度実績	3,390.0	3,497.1											3,443.5



紹介割合
推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和3年度実績	93.9	87.6	96.2	95.8	92.2	92.1	99.3	100.3	101.1	91.0	76.6	94.0	93.6
令和4年度実績	94.9	95.7	97.2	84.3	81.9	94.4	96.1	94.9	87.5	90.0	98.6	97.1	92.7
令和5年度実績	96.4	95.7	97.4	96.9	96.0	98.7	97.8	95.3	95.7	95.9	91.9	95.6	96.2
令和6年度実績	93.6	90.8	95.0	89.1	90.0	88.5	90.9	89.9	88.3	95.8	92.6	93.3	91.5
令和7年度実績	84.3	89.1											86.7

